

北五和地区にウエルシア薬局の出張販売所を開設

㊦市民協働課 ☎36・7197

4月16日、ウエルシア薬局(株)と市が連携し、北五和地区に薬局の出張販売所を開設しました。

全国的にも事例の少ないこの連携事業は、中山間地域の高齢者らの買い物支援の一環として開始。既存の店舗が少ない北五和地区を実施場所に選定し、北五和会館(福用)に出張販売所を開設しました。事業は、市が地域への周知などを行い、店舗運営を同社が担います。店舗では、日用品や市販薬などを取り扱い、買い物不便の解消を目指します。



北五和会館の事務室内に設けられた出張販売所

南原自治会と関本管工が災害時の協定を締結

㊦危機管理課 ☎36・7320

4月24日、(株)関本管工と、南原自治会(塚本守会長)が「災害時に強いまちづくり協定」を締結し、染谷市長の立会いのもと、調印式を行いました。

同社は、同自治会内で大規模災害が発生した際、救助・救護・復旧活動に協力し、事務所を避難所として活用。また、災害時に必要となる資機材をあらかじめ確保・備蓄します。

関本雅輔代表取締役は「地元の企業と協力してこれから資機材を調達・保管していきたい」と話しました。



市長と協定書を手にする関本氏(中央)と塚本氏(右)

市内事業者などへ次亜塩素酸水を配布

㊦商工課 ☎36・7146

市は4月3日から、市内の事業者や介護サービス事業所、保育園などに、次亜塩素酸水の無料配布を行いました。

配布した次亜塩素酸水は、水で4倍に希釈し、せっけんなどによる「手洗い」の補助として使用するもの。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、アルコールなどの消毒液不足を補うために用意しました。

事業者は、空の容器を持って続々と市役所を訪れ、職員から次亜塩素酸水を受け取りました。



市職員から次亜塩素酸水を受け取る事業者(右)

ハラダ製茶がマスク6000枚を寄贈

㊦健康づくり課 ☎34・3282

ハラダ製茶から、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うマスク不足に役立てて欲しいと、市にマスク6000枚が寄贈されました。

4月13日、原田宗一郎代表取締役社長が市役所を訪問。原田氏は「中国製マスクの確保のめどが立った。今後調整していきたい」と話し、染谷市長は「医療機関・医師会からの要望もあり、大変ありがたい」と感謝しました。

寄贈されたマスクは、市の医療機関や福祉施設へ配布する予定です。



染谷市長にマスクを手渡す原田代表取締役社長(右)

SDGsを先導するまちづくり基本協定を締結

◎資産活用課 ☎36・7169

市はこの度、電力調達のコスト削減やエネルギーの地産地消、持続可能な開発目標「SDGs」の推進に連携して取り組む共同企業体（島田瓦斯^{ガス}株・静岡ガス株・静岡ガス&パワー^株）を最優秀提案者に選定。4月17日に、基本協定を締結しました。

共同企業体は、太陽光発電設備や蓄電池・電気自動車の設置、家庭での

太陽光発電の電力活用、余った電力の施設間融通などを通じた、エネルギーの循環などを提案しました。対象は、市役所本庁舎や市内小学校、田代環境プラザなど市内47公共施設。今後、施設の整備や電力供給の開始を目指します。

「広報しまだ」が2度目の内閣総理大臣賞を受賞

◎広報課 ☎36・7118

（公社）日本広報協会は、4月23日に令和2年全国広報コンクールの審査結果を発表しました。「広報しまだ11月号」は、広報紙（市）部門で最優秀賞の「特選」を受賞。さらに、10部門の特選の中から一点のみに与えられる最高賞の「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

このコンクールは、全国の自治体が昨年中に発行した広報紙・掲載写真、公開した広報映像などを対象とし、表現力や企画力、デザイン性などが審査されます。

今年の応募作品数は464点で、2度の同賞受賞は、県内初となります。同部門の入賞も8度目となる広報しまだは、愛媛県内子町で開催予定の「第57回全国広報広聴研究大会」において表彰されます。

今後、市民の皆さんに親しまれ愛される広報紙づくりに励んでいきます。取材に伺った際は、ご協力をお願いいたします。

【審査員のコメント】

今まで、全国の自治体広報紙が取り上げてこなかったと思われる「きょうだい児」に焦点を当てた企画は新鮮。当事者と周囲の言葉から、個人や地域が「きょうだい児」にどのような接し方があるのかを、考えさせられる特集に仕上がっている。

令和2年度職員辞令交付式の開催

◎人事課 ☎36・7135

4月1日、新規採用職員と人事交流派遣職員の辞令交付式を開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、例年より規模を縮小して行いました。

辞令を受け、都市基盤部建築住宅課の荒井太基^{あらい たいき}技術員が、代表して職務を宣誓。染谷市長は「市役所は究極のサービス業であり、市内最大の投資会社。10年・20年後の未来図を描きながら、子どもたちが安全に暮らせる、持続可能な島田市を目標とした人づくり、まちづくり、地域づくりを進めなければならない。限られた財源の中でも『縮充』を意識した効果的な行政を目指し、市民の幸福度向上のために尽力してほしい」と職員を激励しました。



染谷市長(右)から辞令書を受け取る新規採用職員(左)

広報しまだ全国広報コンクール受賞歴（広報紙部門）

受賞年	結果	特集タイトル/企画内容
平成24年	1席	ターミナル(終末期医療を考える)
平成25年	特選	このまちのピース(障害者アート)
平成26年	3席	ハグ(里親制度を考える)
平成27年	入選	アイデンティティー(難病を考える)
平成28年	内閣	カクレンボ(子どもの貧困を考える)
平成30年	入選	視線(ソーシャルインクルージョンを考える)
平成31年	3席	ダイヤル(公共救急サービスを考える)
令和2年	内閣	シブリング(きょうだい児について考える)



広報しまだ11月号